

大学

交流文化学部 交流文化学科

観光産業2（観光交流論）

林大策 教授

「観光の新しい価値」を考え、
社会や世界、自分自身の未来と向き合う。

名所旧跡やグルメを楽しむだけでなく、地域の伝統や文化を体験し、そこで暮らす人々と交流するという、「体験」「実感」に重きを置いた観光・旅が広がりつつあります。観光まちづくりや観光交流を専門とする林先生は、「観光の新しい価値を学ぶこと」を目標に「観光産業2（観光交流論）」を開講しています。授業では、林先生が調査・研究した日本各地の施設やまち、個人やゼミで協働している自治体のプロジェクトなど、観光産業のさまざまな事例を紹介。学生は日本の観光や地域活性化の課題を知り、その解決策を追究します。「『想い』がある人に多くの人が集まり、地域の力となるコミュニティ・ビジネスが確立して、地域の誇りが生まれます。そうした国内外の取り組みを学びながら多様な価値観と出会い、社会や世界の未来、さらには自分自身の生き方も向き合っていきたい」と学生たちに期待します。



愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

高等学校

愛知淑徳高等学校

化学

村松 けい子 教諭

「実験」を重視した、伝統の理科教育。
驚きとともに探究心を育む。

和装と洋装の生徒たちが、試験管を並べて化学実験に取り組む——愛知淑徳学園百年史に掲載された授業写真が物語るように、愛知淑徳は古くから「実験」を重視した理科教育に努めてきました。3年ごとに実施する理科旅行も本学園オリジナルの体験プログラムです。高校で化学を担当する村松先生も、「実物」や「実際の化学反応」を生徒たちに見せる授業づくりを大切にしています。「この元素の炎色反応は何色？イオン化エネルギーの小さいものは？といった問いの答えを暗記するのではなく、自分の目で見た『本物』として、驚きや感動とともに記憶する。そんな生きた授業を続けたいと思います」と語った村松先生。物質の昇華を活用した防虫剤、水分を吸着する乾燥剤などの具体例を挙げ、化学のおもしろさを伝えます。生徒たちは身のまわりにあるものに関心を寄せ、向学心や探究心を豊かに伸ばしています。

